

## [成果情報名]ハウスビワ「はるたより」の高糖度果実生産のための結果枝特性

[要約]ハウスビワ「はるたより」の糖度は葉数との相関が最も高く、糖度 13 度以上の果実を生産できる結果枝の目安は葉数 15 枚以上である。糖度と果実重には関連が認められない。

[キーワード]「はるたより」、糖度、葉数、結果枝長、果実重

[担当]長崎県農林技術開発センター果樹・茶研究部門ビワ・落葉果樹研究室

[連絡先] (代表) 0957-55-8740

[区分]果樹

[分類]普及

[作成年度]2021 年度

### [背景・ねらい]

ビワ「はるたより」は大果で食味がよく、施設栽培を中心に導入が進められているが、現地では低糖度により食味不良となる栽培園地も散見され、品種の特性をうまく発揮できていない。高品質果実を安定して生産するには、高糖度果実を生産できる結果枝の特性を明らかにする必要がある。そこで、高糖度果実生産に関連性の高い結果枝の各種要因について明らかにする。

### [成果の内容・特徴]

1. 糖度と結果枝の各要因との相関は、葉数が最も相関が高い。また、葉数は結果枝長および中心径との相関も高い（表 1）。
2. 糖度 13 度以上の果実の結果枝は 13 度未満の果実より葉数が多く、結果枝長、中心径が大きい。糖度 13 度以上の果実を生産するには葉が 15 枚以上着生した結果枝を利用する（図 1、表 2）。
3. 糖度 13 度以上の果実と 13 度未満の果実では、結果枝の節間長および果実重に差が認められない（表 2）。

### [成果の活用面・留意点]

1. 本試験は場内に植栽した「はるたより」12～13 年生（2008 年春接ぎ）を供試樹とした。
2. ハウスの温度管理（最低温度）は、12 月 8℃、1 月 8℃～10.5℃、2 月およそ 10℃、3 月から収穫期は 11～12.5℃とした。
3. 結果枝の測定部位は、枝長を果痕枝等の基部から最上位葉までの長さ、果房下径を最上位葉直下の径、中心径を枝の中間部の径、基部径を結果枝の最下位の径とした。葉数は健全な葉を調査し、サビダニ加害や展葉が未熟なものについては調査から除外した（写真）。
4. 良質な結果枝を育成するためには、芽かきや誘引等の枝管理を適期に実施するとともに、肥培管理により細根を増やし樹勢を保つことで、結果枝だけでなく樹全体の葉数を確保するよう留意する。



写真 結果枝の調査部位

[具体的データ]

表 1 糖度および葉数と結果枝の各種要因の相関係数

要因 1	要因 2 <sup>z</sup>	2020年産	2021年産
糖度	結果枝長	0.430 **y	0.447 **
	果房下径	0.337 *	0.302 **
	中心径	0.519 **	0.438 **
	基部径	0.267	0.539 **
	葉数	0.624 **	0.612 **
葉数	結果枝長	0.631 **	0.839 **
	中心径	0.838 **	0.540 **

<sup>z</sup> 収穫時点、2020年産葉数は1月下旬時点

<sup>y</sup> 表中の\*は5%水準で、\*\*は1%水準で有意差あり

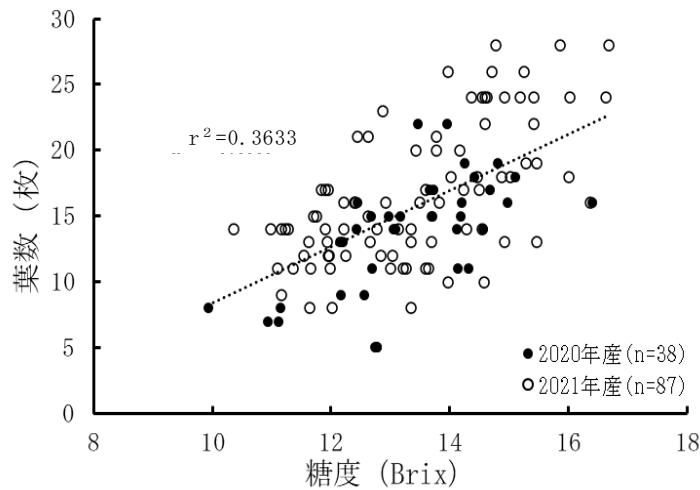


図 1 「はるたより」における糖度と葉数の関係

表 2 高糖度果実と低糖度果実における結果枝特性および果実重

年産	糖度区分 <sup>y</sup>	糖度 (Brix)	葉数 (枚)	結果枝長 (cm)	中心径 (mm)	節間長 <sup>x</sup> (cm)	果実重 (g)
2020	13度以上	14.2	16.1	30.2	10.3	1.9	60.3
	13度未満	12.1	10.0	19.7	8.9	2.0	56.7
有意差 <sup>z</sup>		**	**	**	**	n. s.	n. s.
2021	13度以上	14.5	18.3	24.9	9.8	1.3	61.5
	13度未満	11.9	14.0	16.3	9.2	1.1	64.6
有意差		**	**	**	**	n. s.	n. s.

<sup>z</sup>t検定により\*\*は1%水準、n. s.は有意差なし

<sup>y</sup>供試果実数はそれぞれ2020年n=22、16 2021年n=51、36 ただし2021年の果実重はn=37、32

<sup>x</sup>節間長=結果枝長/葉数

[その他]

研究課題名：「なつたより」等良食味ビワの省力栽培法の開発

予算区分： 県単

研究期間：2020～2021 年度

研究担当者：園田望夢